

South Wind

サウスウィンド Mar. 2024 Vol.104

特集

第18回 世界とトモダちみやざき国際フェスタ



Contents/ 目次

第18回 世界とトモダち みやざき国際フェスタ	2,3
南米県人会歓迎レセプション	4
JICAデスク宮崎再開について	5
Hear! Here Voices	6
宮崎県国際交流協会ニュース	7
INFORMATION	8

写真は「世界とトモダちみやざき国際フェスタ」での様子です。今回はカーリーノ宮崎の地下1階から2階の各会場で多彩なプログラムが開催され、異国情緒あふれるカラフルな雰囲気の会場で、多くの来場者が多様な国際交流を楽しんでいました。



公益財団法人 宮崎県国際交流協会
<https://www.mif.or.jp>

世界とトモダチみやざき国際フェスタ

11月11日(土)、カーリーノ宮崎地下1階、1階および2階にて、18回目となる「世界とトモダチみやざき国際フェスタ」を開催しました。当日は多くの方がご来場下さり、外国人住民との交流や県内の国際交流団体や出入国在留管理庁によるブース出展、多彩な世界や日本の文化体験ブースに加えて、ベトナムやウクライナの国際理解講座を楽しんでいただきました。また、地下1階のラディッシュセブンのワールドグルメコーナーも大好評でした。ご来場いただいた皆さま、運営にご尽力いただいた皆さま、本当にありがとうございました！

World Booth 世界の国ブース



モロッコ



エジプト



イギリス



バングラデシュ



カナダ



中国

Japanese Traditional Culture 日本伝統文化体験



鎧兜の試着 1



鎧兜の試着 2



神代独楽体験

International Booth 国際交流団体ブース



宮崎市国際交流協会



清武町国際交流協会



宮崎県ベトナム人協会



宮崎ブラジル親善協会

4つの国際交流団体に、活動状況等をPRするブースを出展していただきました。

Experience World Culture 世界の文化体験ブース



伝統楽器の二胡演奏♪



モンゴルの遊び「シャガイ」



ドイツ出身の国際交流員から学ぶ
クリスマス飾りづくり



ブラジルの国技、カポエイラ

Other Booth 他協力団体、国際理解講座 & 学生ボランティアの方々



真琴の体験♪



出入国在留管理庁



ベトナム講座



ウクライナ講座

第18回 「外国人が見た宮崎」アート作品展

12 か国・地域の 29 名の宮崎在住の外国人の方々から、写真 18 点、絵画 3 点、書道 15 点、手工芸 3 点、合計 39 点の
出展がありました。さまざまな視点から宮崎が表現されていて、どれも素晴らしい作品ばかりで、新しい宮崎が発見され
たようです。皆様の投票により決定した今年度の最優秀作品と受賞者は次のとおりです。

【写真部門】



「私とねこ！」
ゲンバンダットさん
(ベトナム)

【絵画部門】



「柿柿如意」
ヨウジュンさん
(中国)

【書道部門】



「剣道」
カデルベコフテミルランさん
(キルギス)

【手工芸部門】



「Irises over the river」
メレニブスカリリアさん
(ウクライナ)

南米県人会歓迎レセプションが開催されました



10月27日に開催された宮崎県人会世界大会を前にブラジルなどの南米県人と交流を深める歓迎レセプションが10月26日19時より開催されました。このレセプションは、宮崎ブラジル親善協会が県人会世界大会に合わせ開いたもので、ブラジルやアルゼンチン、それにパラグアイの3つの県人会と県内関係者合わせて92人が参加しました。それぞれが昔話に花を咲かせながら親睦を深められていました。来年サンパウロで開かれるブラジル県人会創立75周年記念式典への招待状が河野知事に手渡されると、「ありがとうございます、行きたいです!」と力強く宣言されました。テレビ局のインタビューで、ブラジル宮崎県人会・蛭原忠男会長は「母県と移民していった宮崎県人の同胞たちの絆を深めることで、お互いの国のためになると思います。」と語られていました。県人会世界大会は、10月27日から3日間の日程で開かれ、初日は、宮崎市のシーガイアで記念式典などが開催されました。



米良会長の主催者挨拶



河野知事の来賓挨拶



ブラジル宮崎県人会
尾関副会長の挨拶



イビウナ市長の挨拶



宮崎大学鮫島学長の乾杯ご発声



米良会長から高橋元会長へのお土産品贈呈



蛭原会長から知事へ招待状贈呈



参加者全員による記念撮影



日高県議会副議長の閉会挨拶



皆さん、初めまして！2023年11月よりJICAデスク宮崎・国際協力推進員を務めております西村と申します。宮崎県五ヶ瀬町出身です。高校まで地元で過ごし、その後、福岡→東京→宮城と移り住んで2019年に宮崎県にUターンしてきました。これまで国際NGOのスタッフとして、紛争や災害により困難にさらされた人々の緊急～復興支援活動に従事。東日本大震災発災後は宮城県石巻市に8年間住み、復興や地域づくりに携わってきました。今回はこちらの紙面を頂き、自己紹介代わりに私なりの「国際協力」にまつわる話題を提供できればと思います。

国際協力推進員って？

国際協力推進員とは、地域におけるJICAの窓口です。自治体や学校、地元の企業等と連携しながら、地域での国際協力の取り組みを促進する役割を担います。各都道府県にいますが、宮崎では「JICAデスク宮崎」として、宮崎県国際交流協会に配置されています。

○ 考えたい「構造的貧困」

世界の人口は80億人を突破しましたが、そのうちの実に7億人以上が、国際貧困ラインの1日1.9ドル未満での生活を強いられています(2021年の統計による)。様々な要因が複雑に絡み合っていますが、不公平な社会構造が原因にあると捉え、一握りの富める者たちによる構造的な暴力の結果であるということもできます。こういった現状を指して「構造的貧困」と呼びます。

昨今、世界情勢は混迷を極めている、と取り沙汰されますが、これまでも世界各地ではずっと紛争が続いてきました。例えばソマリアやスーダンなど、アフリカ各国では何十年も断続的に内戦が続いている地域もありますが、こういった国の現状は認知度が低く、世界から取り残された存在とも言えます。



石巻の漁師さんから漁網の編み方を教えてもらう

○ 戦争と子どもたち

戦争で犠牲になるのはいつも弱い立場に置かれた人々です。その最たるものが子どもでしょう。ウガンダでは、長期にわたり子どもが兵士として戦うことを余儀なくされました。当時、DDR(武装解除・動員解除・社会復帰)を推進するにあたり、子ども兵だった彼ら自身の手で武器を破壊するという手法が取られました。彼らが握られていたのはカラシニコフ(AK-47)という自動小銃。小型のため子どもでも扱えるという特性があります。その銃を自らの手で壊すことにより、戦闘に従事した自分自身と決別する。このプロセスが彼らの心のケア、社会復帰の一助となっていました。そのカラシニコフをウクライナの少年が担いでいる姿を見たとき、20年代になってもこれが、と、どうしようもない虚無感に襲われました。



石巻の町内会女性部の皆さんと

○ 暴力と負の循環

イラク戦争の開戦前夜、学生だった私は、平和を祈るためのキャンドルナイトに参加しました。ブッシュ政権がイラクへの攻撃を決定したと報じられるなか、ある先輩からは、「もう意味ないんじゃないの」と言われたことが、今でも心に残っています。時は流れ2021年、アメリカはアフガニスタンから完全に撤退しました。現在、アフガニスタンではタリバンが復権し、女性の教育の機会、社会参画の機会、女性の自由そのものが再び奪われています。アメリカは、武力では何も解決できないということを20年かけて証明しました。

そして今、イスラエルのパレスチナへの攻撃では多くの市民が犠牲となっています。このまま攻撃を続け、仮にハマスを壊滅に追い込んだとしても、憎しみは連鎖し、また次のハマスを生むだけでしょう。

○ ひとつながりのこの世界

生物としてのヒトは弱く、だからこそ群れをつくり、お互いに支え合って命を繋いできた歴史があると思います。私たちはみんな、ひとつながりのこの世界に生きている仲間。水も食糧もこの地球上のみんな(人間だけでなく)でシェアしています。加速度的に進む地球温暖化一つとっても、地球の裏側で起こっている出来事も他人事ではない、と実感する場面も多いですね。これからは本当の意味で私たち一人ひとりが国境を越え、地球市民として手を携え合わなければ、幸せに暮らしていくのは難しいのではないのでしょうか。

私たちは微力だけど無力じゃない。ここ宮崎から、小さな一歩をひたすらに積み重ねていきたいと思います。



エジプト 白砂漠でのキャンプ

PARTNER

国際協力分野に特化した求人情報サイト
国際機関や企業、NGOなどの求人情報だけでなく、セミナーやイベントなどの情報も豊富。世界とつながる仕事がしたい、と思っている方におすすめ



西村 真由美 Mayumi Nishimura

独立行政法人 国際協力機構 Japan International Cooperation Agency

国際協力推進員 Coordinator for International Cooperation

♥ かに座のヤギ派

♥ 好きな食べ物は牡蠣と柿

Hear! Here Voices

ヴィンセント ホイザさん



ドイツの首都、ベルリン出身

2010年、高校生の時に留学生として初来日、日南市にて1年間ホームステイを経験。その後、数回来日、東京、北陸に居住。2018年から佐賀県にて5年間国際交流員を勤める。2023年9月に再び宮崎へ。現在は県内の保育園にて保育の仕事に従事。

高校生の時、留学先として日本を選んだ理由を教えてください。

当時、ヨーロッパとは異なる文化に触れたくて、アジアの国への留学を希望していましたが、アジアの国の中では、日本は食べ物が美味しそうだという印象があり、また、お寿司が好きだったので日本を選んだと記憶しています。

しかし、実際には、宮崎に来て、寿司よりもチキン南蛮が好きになりました！今回佐賀県から宮崎へ引っ越して来る際も、チキン南蛮が食べられることがとても楽しみでした。

食べ物に関しては、高校生で来県した時に、宮崎の完熟マンゴーを食べさせてもらったのですが、これが間違いでした。それ以後、どこのマンゴーを食べても美味しいと思えなくなってしまいました(笑)。

宮崎の印象は？

北陸や東京にも住んだことがありますが、宮崎は南国の雰囲気があり、気候が温暖で住みやすいです。最初に宮崎で過ごした留学時、人生で初めて雪を見ない1年を経験しました。今は、1年に1度雪を見に、長野県など山手のエリアに旅行に行き、1週間くらい雪三昧で過ごします。雪とのつき合いはこれで十分で、あとは暖かい宮崎で過ごすのが好きです。夏の猛暑は厳しいですが、有給休暇をまとめてとり、ドイツへ里帰りするようにしています。

それから、宮崎は自然に囲まれて海や山が美しく、人も優しく、また人の心に余裕があってせかせかしていないところが好きです。また、ワーク・ライフ・バランスがとれて、ゆったり過ごせる所も気に入っています。

宮崎に関して唯一望むことは、公共の交通機関の充実でしょうか。もう少し公共の交通機関が便利になり、車の渋滞なども改善してくれるとうれしいと思います。

ドイツについて、日本との違いなど教えてください。

ドイツや欧米各国は個人主義の社会である一方、日本は集団主義の社会です。

高校の頃、留学生として日本に来た時には、学校では制服を着るのを知っていましたが、他にも色々なルールなどがあって、校則による同調圧力が厳しいと感じました。

しかし、ドイツに帰ったら、服装をはじめ、ドイツの学校は色々な意味でフリーで、皆が自分の好きなようにしていることにリパスカルチャーショックを受けました。大人の社会もそうですが、個人的にはどちらの方が絶対に良いとは言えず、両方の中庸で生活するようにしています。



日本語はどのように習得されましたか？

高校留学の頃から始めましたが、大学で日本語を専攻しましたので、その頃から本格的に勉強しました。

日本に移住してからも語彙や漢字を増やして、現在、学習歴は10年を超えています。

日本語はやはり日本に来てから一番上達したと感じます。日々、新聞を読んだり、テレビをつけて日本語のシャワーを浴びれますし、一番有効な方法は日本人の友達をたくさん作ることだと思います。宮崎弁は高校の時に留学して、最初に来たのが宮崎だったのでイントネーションなど慣れていました。一番難しいのは、保育園の子供達の言葉でしょうか。聞き取るのも、理解するのもなかなか難しいですが、日々勉強させてもらっています。



これから挑戦してみたいことはありますか？

趣味のサーフィンをもっとレベルアップしたいです。元々スノーボードが好きですが、佐賀に住んでいた時にサーフボードを買って、たまにサーフィンをしました。

宮崎はきれいな海、そしていい波にも恵まれていて、季節に関係なくいつでもサーフィンができます。多くのサーファーもおそらく同じことを感じていると思いますが、ボードに乗っている時には心配事や悩みなどを全部陸に置いて、波の上では完全に自分のしたいことに集中ができて、強い開放感を味わえます。

宮崎の人たちへのメッセージをお願いします。

過去にほぼ1年間宮崎県に住んでいましたが、意外と宮崎のことにまだ詳しくありません。当時は日本語もまだそれほど堪能ではなかったので、様々な物をよく理解できませんでした。なんとなくしか覚えていない、もしくは理解していないことがたくさんあります。

これからもっとたくさんの経験や勉強を通じて、宮崎生まれ、育ちの人に負けないくらい宮崎のことに詳しくなって、立派な宮崎県民になりたいです。

好奇心旺盛なので、どこかでお会いする機会があったら、気軽に話しかけていただき、色々なことをお話ししたり、教えていただけたらとても嬉しいです。



宮崎県国際交流協会 ニュース

● 次の講座を開催しました。 ●

日本伝統文化体験講座(宮崎市)

11月25日、爽やかな秋晴れの中、宮崎県総合文化博物館の古民家で「茶道」の体験講座を開催しました。県内在住の外国人10名の方が、裏千家教授、小牧宗芳氏のお点前や、お点茶体験を堪能されました。古民家での静かな雰囲気の中、茶道の心得を表す言葉である「和敬静寂」を感じていただけたのではないかと思います。



外国人住民向け防災セミナー “つながる防災セミナー(宮崎市)”

12月9日に、宮崎大学附属図書館1階で外国人住民向け防災セミナーを開催しました。前半では、日本で起こりうる災害と防災についての基礎知識を学びました。後半のブース展示では防災メール登録講習・非常時持ち出し道具の展示、ハザードマップの確認、AED操作体験を行いました。参加者からは、「災害から身を守る方法や防災グッズの情報がわかりやすい説明で理解できた」という感想が寄せられました。



国際理解講座 ブラジル編

12月2日に、日南市生涯学習センターまなびピアで国際理解講座ブラジル編を開催しました。講師の田村ジュリアさんにブラジルの基本情報や食文化などについてお話をしてもらった後、ブラジルの揚げ餃子パステウと、野菜たっぷりの万能ソース、ヴィナグレッチを作りました。調理の後は、講師と交流しながら、ブラジルのコーヒーやブラジルのチーズパン、ボンデケージョと一緒においしくいただきました。



多文化共生に関する講座

1月13日に、宮崎県企業局の県電ホールで多文化共生講座「アフリカ少年と考える多文化共生」を開催しました。カメルーン生まれ、日本育ちの漫画家、星野ルネさんを講師に迎え、4歳前以来日2つの文化の中で体験したエピソードを漫画で楽しく紹介していただきながら、多様性や多文化共生について考えました。小さなイメージに囚われず広い世界を自分の目で見ること、違いではなく同じに目を向けること、文化は人間そのものであることなど、多文化共生社会で生きる様々なヒントを教えてくださいました。



外国人住民のための日本語講座 (対面・オンライン)

日本語を学びたい外国人住民を対象に日本語教師が学校形式で教える日本語講座(対面・オンライン)を開講しました。日本語レベルに応じてクラス分けを行い、日本語を初めて学ぶ方からある程度話せる方まで、様々な国や地域の方が日本語を学ばれました。



地域日本語教室

県内では約8700名の外国人住民が各市町村で生活しています。外国人住民が地域社会の一員として生活するために必要な日本語を学ぶとともに、外国人住民と日本人住民の交流を深めることを目的に「地域日本語教室」が県内各地で実施されています。実施状況は「ひなたにほんごナビ(<https://hinatanihongo.mif.or.jp/>)」をご覧ください。



その他、10月～2月に以下の講座も開催しました。

- ・国際理解講座(ベトナム編・ウクライナ編・アメリカ編)
- ・国際ふれあいチャット後期(英語・中国語・韓国語)
- ・外国人住民向け防災セミナー(日向市)
- ・自治体職員向け外国人支援防災講座
- ・日本伝統文化体験講座(都城市)
- ・日本語れんしゅう会
- ・日本語学習支援者フォローアップ講座(対面・オンライン)
- ・日本語ボランティア実践研修(対面・オンライン) など



ちよっぴいいき 

「わたしの出会ったやさしい日本語」

スタッフ 高取 涼子

昨年の夏、関西を訪れた時のこと、空港までのバスに乗るために急いでいたところ、外は土砂降りでした。予期せぬ天気ですぶぬれになり、ぶるぶる震えながら信号待ちしていると、地元の女性の方が傘をさっとさしてくださいました。お礼をいってなんとかバス停にたどり着くと、男性の案内役の方がおっしゃったことが聞き取れませんでした。「えっもう一度よろしいですか。」という、そのご年配の男性の方がお手製のやさしい日本語メモを取り出し、「〇〇た一みなるです」と一字一句指差しながら教えてくださいました。私は驚き、その方の一生懸命さに何も言えず、「慣れない関西弁が早口で聞き取れなかったただけだ」と心の奥底でつぶやいただけでした。・・次第に、ここまでやさしい日本語が浸透しているのだなと感心しました。傘のエピソードとともにこの出来事が日に日によみがえり、ほっこりするのです。



INFORMATION

宮崎県国際プラザについて

情報提供

国際交流・国際協力活動などに関する情報を提供しています。

図書の閲覧・貸出

国際理解や多文化共生、外国語学習等に関する書籍や雑誌があり、1人2冊まで2週間借りることができます。また、隣接する交流スペースには英字新聞も置いてあり、自由に閲覧することができます。

わーどBOX・国旗の貸出

民族衣装をはじめ、さまざまな国の工芸品や楽器が入ったわーどBOXや国旗の貸出を無料で行っています。国際理解の授業や講座、国際交流のイベントなどにぜひご利用ください。

※詳細は協会HPをご覧ください。



わーどBOXについて



国旗について

場 所：カリノー宮崎 地下1階（宮崎市橋通東4-8-1）

開館時間：火曜日～土曜日 10:00～19:00

休 館 日：日曜日・月曜日・祝日・12/29～1/3

みやざき外国人サポートセンターからのお知らせ

みやざき外国人サポートセンターでは、県内在住の外国人のみみなさんからの生活に関する相談を対面・電話・メール・オンライン(ZOOM)で受け付けています。詳しくは下記までお問い合わせください。

みやざき外国人サポートセンター

カリノー宮崎 地下1階（宮崎市橋通東4-8-1）

TEL:0985-41-5901

FAX:0985-41-5902

E-mail: support@mif.or.jp

URL: https://support.mif.or.jp



Website



Facebook



Instagram



★以下の冊子を、英語・中国語・韓国語・ベトナム語で発行しています。HPからダウンロード・印刷してお使いください。

「宮崎県に住む外国人のための生活情報誌」
※日本語版もあります。



「メディカルハンドブック」



◆ 賛助会員 入会のご案内 ◆

会 費：個人会員 年間1口 2,000円 団体会員 年間1口 10,000円

特 典：協会発行の定期刊物「プラザニュース(日・英・中・韓)」・「South Wind」等の提供、協会開催事業の案内、協会開催講座の参加割引、協会HPから団体HPにリンク可能(希望団体のみ)



South Wind

サウスウィンド
Mar.2024 Vol.104



企画・編集 公益財団法人 宮崎県国際交流協会 第104号 2024年3月発行

〒880-0805 宮崎市橋通東4-8-1 カリノー宮崎地下1階 TEL.0985-32-8457 FAX.0985-32-8512

● URL <https://www.mif.or.jp/> ● E-mail miyainfo@mif.or.jp

情報・意見などをお寄せください。

外国人との交流会など、国際交流に関する催しを計画している団体やサークルの情報をお待ちしております。また、国際交流に関する話題や体験談、意見なども協会にお寄せください。本誌に対する要望もお待ちしております。



開館時間：火～土 / 10:00～19:00
休館日：日・月・祝日・12月29日～1月3日